玉翠俳句王にくの会・誌上句会

毎月九日　お肉でも食しながら、俳句を二句ほどひねろうか

先生の句

夜は永久に明日待つ時間春の雪
妻でなく母でなく午後のアネモネ
東京の西日は猫の舌ざわり
●S47卒　対馬康子

歌会に未だ咲きかねし萩の花
治虫忌に火の鳥いずこ冬の空
象潟の陸の島々五月雨
●S34卒　頼則紗頼

はまぐりは黙座したまま詩人なり
たんぽぽの小さな叫び野に満ちて
坊さんがかんざし買うよな小春かな
●S37卒　岡崎洋々

寒餅や母の思いの便りかな
畦道をうたいながらの若菜つみ
初釜に新たに誓う今年こそ
●S45卒　井上まき女

いくとせを雨戸は見たか庭の春
雨上がりポトリと落ちた百合の花
秋の蚊に我を刺すなと語りかけ
●S43卒　小島豊優

花菖蒲水が日ぐれを惜みけり
春の谷水踊りつつ光りつつ
山に沿ひ川に沿ふ村つばくらめ
●S38卒　田阪千十

初春に武士のこころね伝え聞く
伝え聞く春の訪れ今いずこ
身をかわすすべはつばめに教えられ
●S50卒　中山髭丸

つばめ一閃くつきりと描く紅の線
群生の中や孤独な水芭蕉
カブトムシくねつとちからをぬいてみな
●S50卒　和田芝女

日だまりや呑舟の魚も稲積まむ
春を舞ふ乙女ら五色の光たれ
わしわしと握り飯喰ふ青田道
●S50卒　豊澤壊殻

立つ菩薩座る菩薩や鳥渡る
空の高さたしかめて蛇穴に入る
明日滅ぶ星やもしれず兎の眼
●S50卒　坂田光義

おぼろ月烟るがごとくミモザ咲く
足利とふ時雨るる町を訪ねけり
シクラメンかがり火花といふ者も
●大西千女

素晴らしい感性で俳句の才能をも
ご披露下さった無郷さま、
5月2日に生涯の幕を
閉じられました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます

日溜まりの蒲公英（たんぽぽ）の乳遥かなり
街路樹に灯瞬いて冬来る
白壁に一瞬の影燕来る
●S33卒　大西無郷

つくつくの動かぬ足や空を抱く
かそけき陽待ち焦がるるや石蕗の花
ねこじゃらし光れり日曜午后三時
●S52卒　神崎峻坊

水槽の中からじっと見てる、春
制服で駅舎に集う初燕
●H06卒　市川ねこむすめ

我が家はサンタも素通り枯木星
秋扇半分開けてまた閉じる
草の実や未来は猫に託しけり
●S54卒　豊澤空豆

良きことの在りて緑の豆ご飯
夏の月オコゼは顔まで喰われる
遠雷ヤ電報配達車ノ走ル
●S52卒　松田欣女

頬杖で誰を想うや遠花火
金色の甍連ねし春の海
みくじ買い幸占うもまた幸か
●S52卒　白川夕帆

青切子夏の光を惑はせり
寒禽のつつき放題苔の庭
それぞれに在りて家族の今朝の春
●S47卒　原久美子

祭りの日ちらし寿司喰い酒を飲む
誰も我れ振り向かざりき花吹雪
突然に大人（たいじん）逝けり春の海
●S47卒　土居六条

初明りまっすぐ上る道一本
立ちのぼる雨後の土の香夏は来ぬ
去年より一日早き梅の花
●S47卒　佐々木松翠

連絡先　岡崎洋（S37卒）okazaki@tokeilaw.com　坂田晃一（S50卒）midories@cocoa.plala.or.jp
松田欣末子（S52卒）m-kimiko@u01.gate01.com　和田邦子（S50卒）wadakuni@ae.auone-net.jp